

二、一、心

遠 3
2378
103

操まを競くま三さん人にん女にょ後ご

一名いちめい京きやう太た郎らう物ぶつ語ご

柳りゆう亭てい種しゆ彦ひこ作さく

歌か川かへ豊ゆほう國こく画が

芳よし街まち川がは岸し山やま本ほん榮えい久きう堂だう繡しゆ梓す
親おや父ちち橋はし角かく

筑紫ちくし權六ごんろく操まを競くま三さん人にん女にょ後ご
異本いほん十二段じふにだんののまじりまじり美人びやうじん篇へんのの段だん曰いひははをを在あるる草くさ紙しをを

なほくそ古今ここんまえまへ伊勢いせ物語ものがたり源氏げんじもも戀こひ彦ひこ。
女にょ多た雨あめぬぬ是こゝろ夜よのの唇くちびる以も雪ゆきのの真まこと身み見みのの真まこと亭てい解かいてて、
水みづ初はつ秋あき、秋はは和なごくく大おほ和なご橋はし、橋忠ちゆう孝かう貞ちんのの三さんのの系けい、
三人さんにん女にょ事ことありあり、事はは石いしのの後ご言ごんをを待まちままららすす、
船ふねはは船ふねのの聲こゑ、聲はは船ふねのの後ご言ごんをを待まちままららすす、
うらたかひらく組ぐみのの人ひと数かず、数はは時とき代だいとと世よ話わにに二に、
念ねんありあり、念はは心こゝろにに入いりり、
文政ぶんせい壬午にんご頁へい稿こう成せい全ぜん癸みづ未み春はる發はつ販はん、
柳亭種彦誌

壹



謀
唄

幽蘭集

色紙や

夕の

三の

筆始の

遊女

利生

雑巾

浮世の

ぬすみの

梢の

如葉



藝子
八重梅

實ハ請竹

妹
尾花

節藏の



三人女



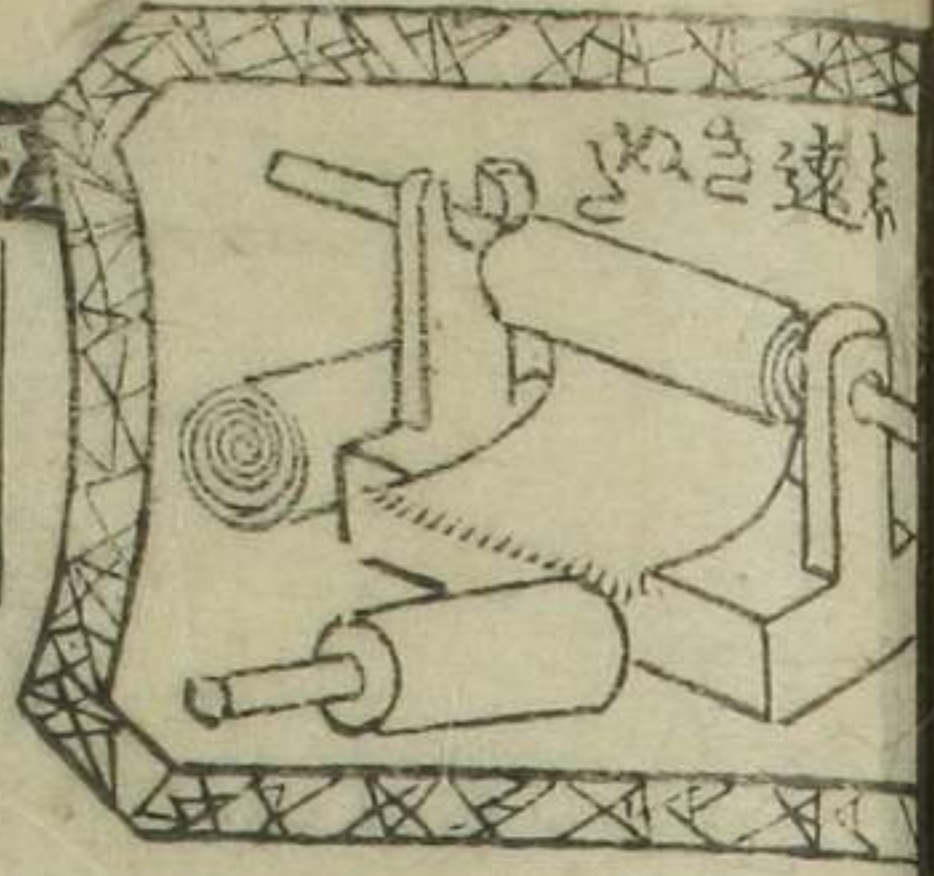
廣小路

正小長

織乃
樵の音

信章

並松緑之助



遠き



濱名の近臣
落久保京太郎

向之岡

松河と
音をかめと

なぐ秋の風

桃青

油原桐大夫の
娘藤の井



虫の音

かきくろ

雲津丹柳
實ハ賊首
筑紫の權六



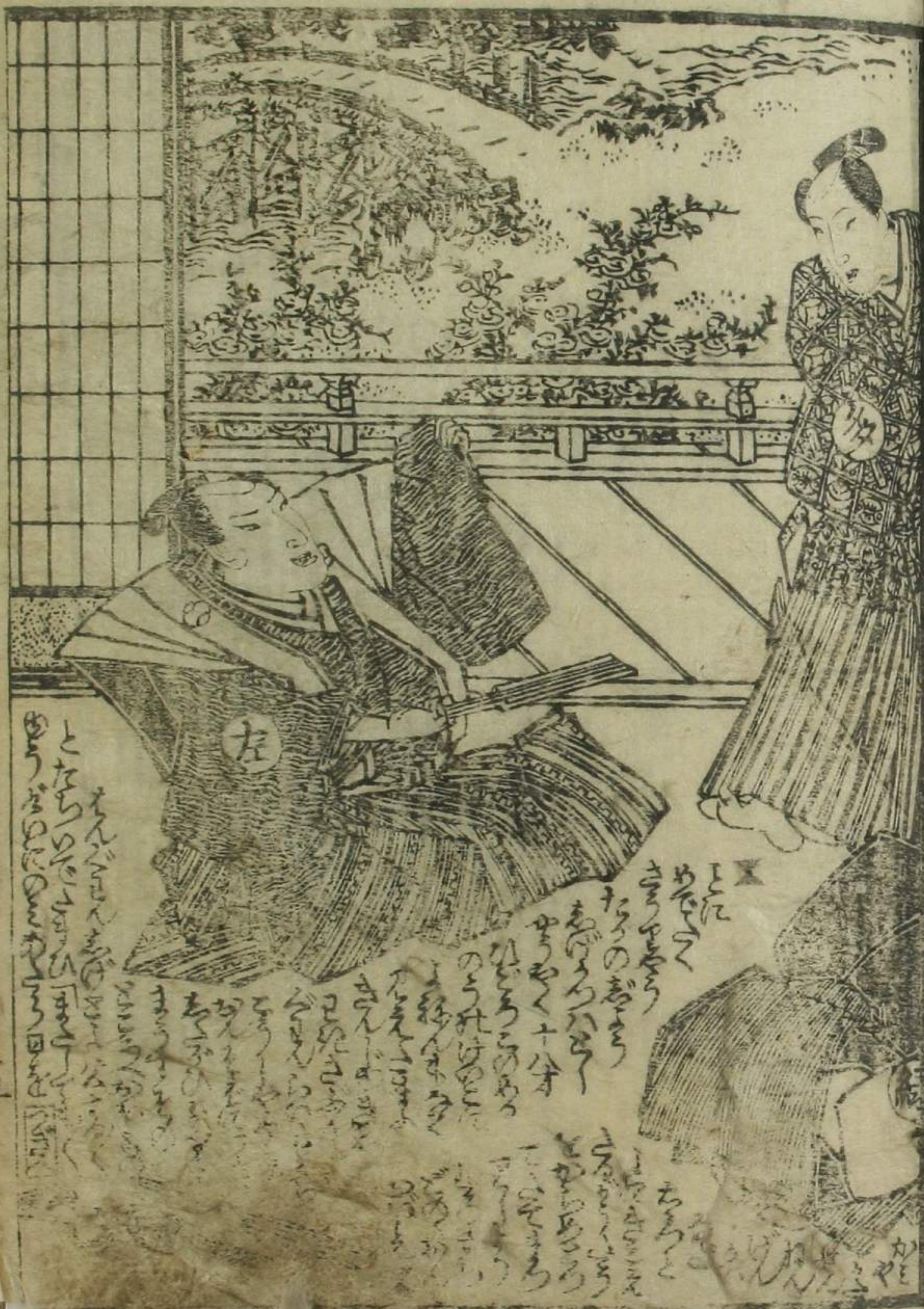
十三絃柱
雁行斜

夫木
琴の音りも乃
まろみぢや
あよひけん
きもほり
けきの袖も
如覺
法師



丹柳の妻小夜衣
實ハ絹脇左文次の
女居袖浦





一の巻の... 二の巻の... 三の巻の...
 四の巻の... 五の巻の... 六の巻の...
 七の巻の... 八の巻の... 九の巻の...
 十の巻の... 十一の巻の... 十二の巻の...
 十三の巻の... 十四の巻の... 十五の巻の...
 十六の巻の... 十七の巻の... 十八の巻の...
 十九の巻の... 二十の巻の... 二十一の巻の...
 二十二の巻の... 二十三の巻の... 二十四の巻の...
 二十五の巻の... 二十六の巻の... 二十七の巻の...
 二十八の巻の... 二十九の巻の... 三十の巻の...
 三十一の巻の... 三十二の巻の... 三十三の巻の...
 三十四の巻の... 三十五の巻の... 三十六の巻の...
 三十七の巻の... 三十八の巻の... 三十九の巻の...
 四十の巻の... 四十一の巻の... 四十二の巻の...
 四十三の巻の... 四十四の巻の... 四十五の巻の...
 四十六の巻の... 四十七の巻の... 四十八の巻の...
 四十九の巻の... 五十の巻の...



一の巻の... 二の巻の... 三の巻の...
 四の巻の... 五の巻の... 六の巻の...
 七の巻の... 八の巻の... 九の巻の...
 十の巻の... 十一の巻の... 十二の巻の...
 十三の巻の... 十四の巻の... 十五の巻の...
 十六の巻の... 十七の巻の... 十八の巻の...
 十九の巻の... 二十の巻の... 二十一の巻の...
 二十二の巻の... 二十三の巻の... 二十四の巻の...
 二十五の巻の... 二十六の巻の... 二十七の巻の...
 二十八の巻の... 二十九の巻の... 三十の巻の...
 三十一の巻の... 三十二の巻の... 三十三の巻の...
 三十四の巻の... 三十五の巻の... 三十六の巻の...
 三十七の巻の... 三十八の巻の... 三十九の巻の...
 四十の巻の... 四十一の巻の... 四十二の巻の...
 四十三の巻の... 四十四の巻の... 四十五の巻の...
 四十六の巻の... 四十七の巻の... 四十八の巻の...
 四十九の巻の... 五十の巻の...







General description of the scene and the figures, written in vertical columns of Japanese text.



三人女



Textual annotations located above the main illustration, providing context or labels.

Textual annotations located below the main illustration, likely describing the scene or the figure.

三ノ公







三ノ女
 月夜に
 望遠鏡を
 覗き見
 する女
 の姿
 描き
 たる
 所
 あり
 とい
 へり
 此の
 望遠
 鏡は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり
 此の
 望遠
 鏡は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり

望遠鏡の
 構造
 及び
 用法
 等
 あり
 とい
 へり
 此の
 望遠
 鏡は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり
 此の
 望遠
 鏡は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり



二ノ女
 月夜に
 刀を
 抜く
 女
 の
 姿
 描
 き
 たる
 所
 あり
 とい
 へり
 此の
 刀は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり
 此の
 刀は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり

刀の
 構造
 及び
 用法
 等
 あり
 とい
 へり
 此の
 刀は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり
 此の
 刀は
 江戸
 時代
 の
 新
 奇
 な
 物
 であ
 り
 女
 の
 姿
 は
 華
 やか
 な
 装
 束
 を
 着
 用
 して
 居
 る
 所
 あり
 とい
 へり



Handwritten text in a cursive style, likely a dialogue or narrative, positioned above the illustration on the right page.



Handwritten text in a cursive style, continuing the dialogue or narrative, positioned below the illustration on the right page.

Handwritten text in a cursive style, likely a dialogue or narrative, positioned above the illustration on the left page.



Handwritten text in a cursive style, continuing the dialogue or narrative, positioned below the illustration on the left page.





一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

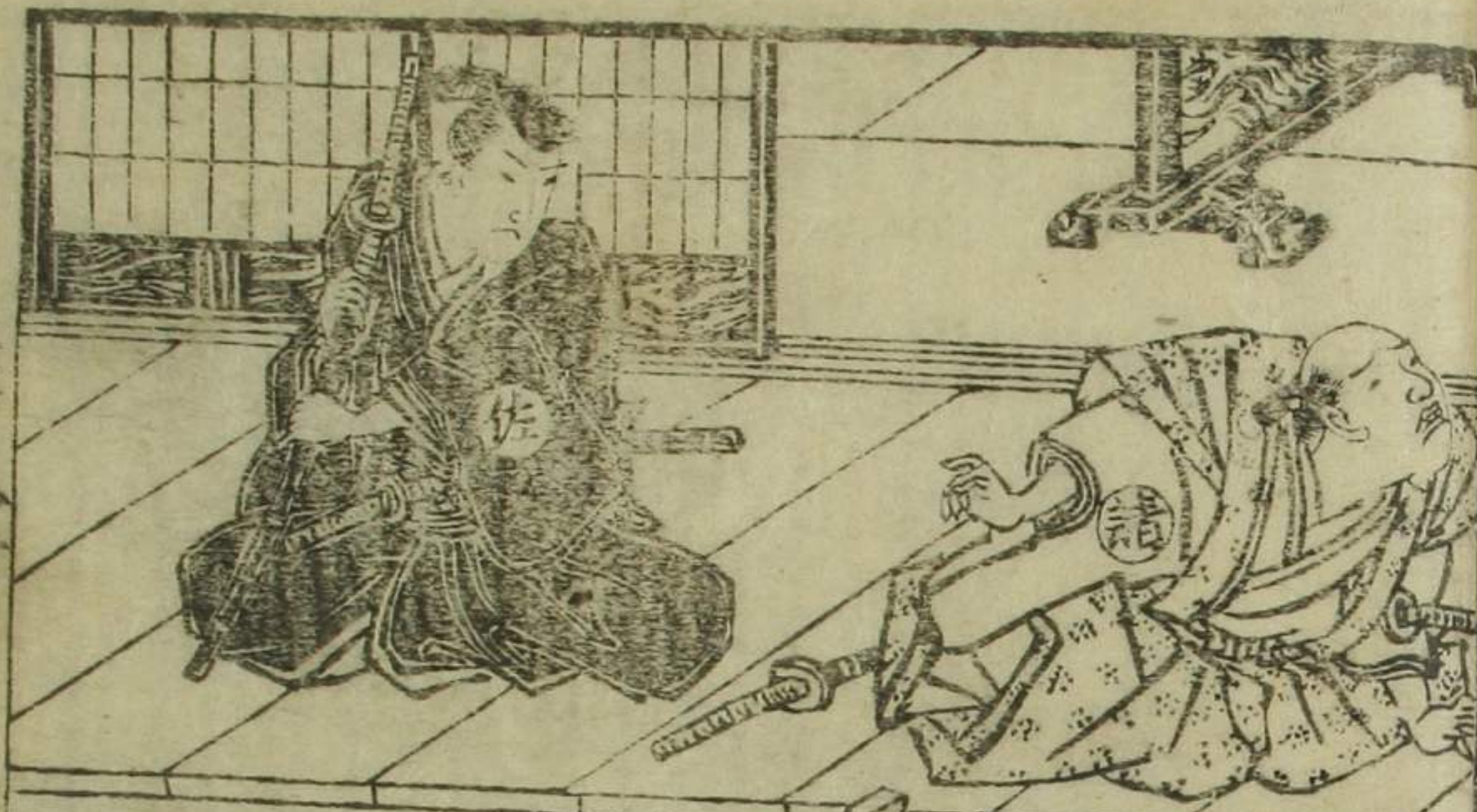


一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



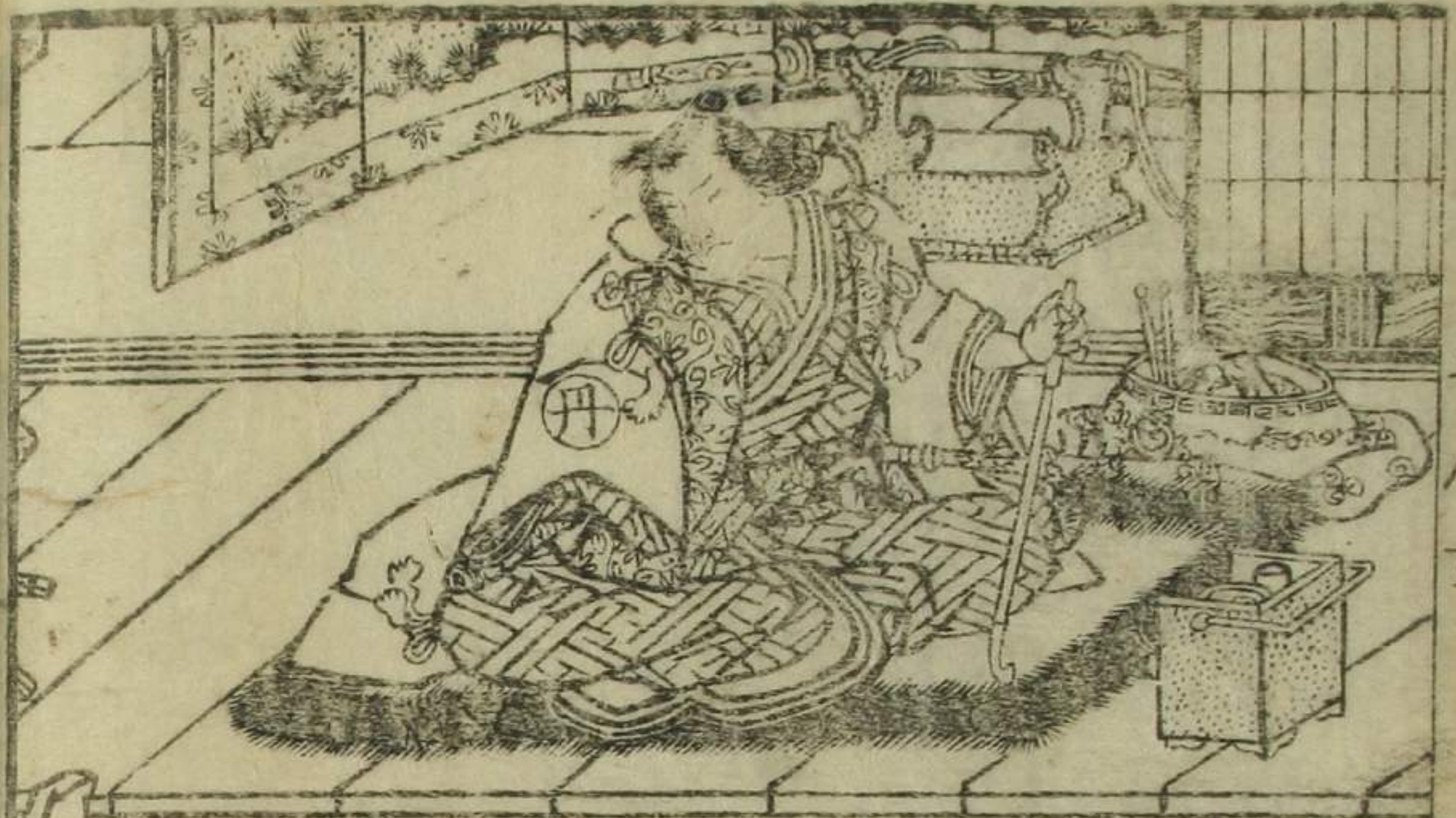






三ノ女
これぞおれに
まはるのほけ
うらやまのほけ
のこんちよりのほけ
つとむのほけ
よあひのほけ
らるるのほけ

おれに
まはるのほけ
うらやまのほけ
のこんちよりのほけ
つとむのほけ
よあひのほけ
らるるのほけ



おれに
まはるのほけ
うらやまのほけ
のこんちよりのほけ
つとむのほけ
よあひのほけ
らるるのほけ

おれに
まはるのほけ
うらやまのほけ
のこんちよりのほけ
つとむのほけ
よあひのほけ
らるるのほけ

歌川豊國画〇柳亭種彦作

美艷仙女香
一ツミ四十八綱



八陵の鏡又名唐鏡
照天姫所持の鏡也

江川雷吉彫刻
葛原晋米書



浅草市の日々堂初
黒船町村田店

小栗の上の巻
一代記
南仙笑楚満人作
一猛齋芳虎画
錦橋堂板



